

植物多様性センターの「ネジバナ」

芝生や土手など人間の生活圏の近くで見られるランです。小さな花はラン科の特徴を備え、花穂は一般の穂状花序と異なり、右巻き又は左巻き上がりに螺旋形に花をつけます。花の左側が茎についていると、次の上の花は後ろに下がる様に、右から左へと進み左巻きで上昇します。下の写真参照。右巻きの場合は逆になります。

ネジバナ単体を鉢植えにしても上手く育ちませんが、シバ等のイネ科や別の植物を植え混むと上手く育ちます。理由は菌根菌との関係で、鉢植えの様な閉ざされた環境では菌根菌だけでは栄養不十分で、他の植物の光合成産物が栄養源として必要なためです。



芝生に生えるネジバナ
他の植物と共生している



左巻きで上昇する花穂
茎の右側に花がついている



小さいが立派なランの花
花弁の中に柱頭が見える



地上部からは想像できない
見事な根を持ち菌と共生する